

1 少子化対策

- (1) 婚活・恋活に対する行政としての考え方を伺う。
- (2) 今まで、市が婚活に取り組んできた状況と成果、課題と今後の取り組みを伺う。
- (3) 市の各部署との連携だけでなく、社会福祉協議会等他団体、市外の組織等広域な連携も必要と考えます。見解を伺います。
- (4) 婚活については、全国の市町で数多く行われており、良い事例は参考にして、取り入れるべきと考えます。見解を伺います。
- (5) 国や県の少子化対策事業を活用した婚活事業があるのか、あれば活用できないか伺う。
- (6) 将来を見据えた対策では、中学生、高校生、大学生への人生設計の中で結婚についての意識づけの事業が必要ではないか見解を伺う。
- (7) 婚活アドバイザー、婚活カウンセラーの活用が必要ではないか見解を伺う。

2 食育について

- (1) 近年、国民の食生活をめぐる環境が大きく変化し、家族と食卓を囲む機会の減少、食習慣の乱れ、栄養の偏り、肥満や生活習慣病の増加、食料自給率の低迷、伝統的な食文化の危機、食の安全等の問題が起きています。

このような状況を受け、国は、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことを目的に平成17年に「食育基本法」を施行した。食育とは、生きるうえでの基本であり、知育、徳育、体育の基礎となるべきもの。様々な経験を通じて、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることと謳ってあります。磐田市は、平成20年に「磐田市食育推進計画」を策定し、市民、関係団体、関係機関、行政が連携して食育の推進に取り組んできました。磐田市食育推進計画策定から約6年経過したが、成果はどうか。検証すべきと考えます。磐田市の食育の状況と課題と対策を伺う。

- (2) 幼児、小学生、中学生の食生活の傾向と課題と対策を伺う。
- (3) 幼児、小学生、中学生の食育はどのように行われているか伺う。
- (4) 高校生や成人の食育指導はどのように行われているのか伺う。
- (5) 食農体験は、子どもの心身の成長に有益と考えるが、幼稚園、保育園、小学校、中学校においての実施状況と課題と方向性を伺う。
- (6) 食農体験は、農協やNPOや地域の方に相談し協力を上げれば比較的うまくいくと考える。保護者や地域の協力者と園児、児童、生徒と一緒に活動できれば有意義と考える。見解を伺う。
- (7) 食育は市民全体の課題と考えます。健康、生活習慣病、作法、マナー、生活リズム、伝統的食文化、食の安全性、環境問題、食料自給率等に関連性があり、食育は人の生きる基本であり、もっと市民全体が関心を持ち、食育を推進することは、健康長寿、生活習慣病予防、認知症予防、生活リズム向上に繋がります。医療費、介護費の削減、青少年の健全育成、食文化継承にも繋がっていきます。市民へのさらなる啓蒙活動が必要と考えます。見解を伺う。